

# TNB58だより



平成 26 年 7 月号

7月になりました。日本は残念な結果に終わりましたが、サッカーのワールドカップは全世界を熱狂させてくれました。母国の威信をかけて戦う熱意や闘志、タイムアップ後のさわやかな姿に感動しながら、一方で、経済や領土、宗教などを因とした戦いが、世界のどこかで今も止むことなく続いていることに戸惑いを覚えた人も多かったのではないのでしょうか。眠たい目をこすりながら、世界のレベルの高さに驚き、そして、将来の自分の姿をそこに重ね合わせた子どもたちに、平和なピッチがいつまでも用意されていることを願うものです。

さて、今月は、先日行われました、「ほめて育てる」菊池省三先生の講演の報告です。子どもだけでなく、いい年をした大人でもほめられればうれしいものです。心温まる学級経営のために、参考にしてください。



## クラスが変わるソーシャルスキル4

### ■「自分の気持ちを伝えるスキル」…押しつけず、我慢もせずに

いつも自分のやりたいことや言いたいことだけを通そうとしたり、強い言葉をぶつけてしまったりする子どもが増えています。一方で、嫌われたくないために「いや」と言えない子どももいます。どちらも人と人との関係を築くうえではトラブルが起きやすいといえるでしょう。また、それほど極端ではないにしろ、たいていの子どもは自己主張をしすぎたり、しなすぎたりで、ときにトラブルになったり、悔しい思いをしたりしています。

(例) ジャイアン 「そんなのいやだよ！ それより〇〇やろうぜ！」 (自分のことばかり主張)

のび太 「う～ん。いいよ……」 (自分を抑えて相手に逆らわない)

しずかちゃん「それもいいけれど、今日はこちらにしない？」 (相手に配慮しながら、自分

のことも主張)

普段自分がとっている方法が、ジャイアンなのか、のび太なのか、しずかちゃんなのかを気づききっかけにします。

### ■「感情をコントロールするスキル」…「怒り」のコントロール

キレる原因となるのは「怒り」ですが、怒りの背景には、くやしさを不満、さみしさ、嫉妬、劣等感、我慢、焦りなど様々な感情が渦巻いています。そのため、怒りを「我慢しなきゃ」と押し込めてしまうと、怒りの背景にあるマイナスの感情は心にとめ込まれてしまい、消えることはありません。また、吐き出し方を間違えれば、押し込んでいた分、怒りが増幅されることもあります。怒りを感じることは悪いことではなく、「感じたときにどうするかが大切」で、それを人にぶつけてしまうことが問題なのです。キレる子ども達は普段から感情をあまり感じられていない子が多く、「自分の感情や気持ちに気づこう」のトレーニングからスタートするのがおすすめです。

(例) ※「おこっているとき」「悲しいとき」「楽しいとき」「くやしいとき」に体(顔は…、胸は…、体は…、その他…)はどうなるかな？

※ドッジボール大会でミスをして友達に「おまえのせいで負けたんだぞ」と強く責められたらどんな気持ちになるだろう？

(岩澤一美監修「クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法」より)

## 丹波市教師カススキルアップセミナー

6月7日（土）、丹波市立新井小学校において、丹波市教育委員会主催の「丹波市教師カススキルアップセミナー」が開催され、丹波市、篠山市他 250 人の教師が参加しました。このセミナーでは、「ほめ言葉のシャワー」で有名な、北九州市立小倉中央小学校教諭の菊池省三先生を招き、新井小学校 6 年生に対する公開授業、さらに「生きる力を育む学級づくりの方程式」というテーマで講演会が行われました。

### 公開授業「ほめて育てる達人と丹波の子どもたちとの真剣授業」

授業では、導入で「あてずっぽうでも言えそうな人」と投げかけたり、「近くの人と相談しよう」と 5 秒間の相談タイムを指示したりするなど、児童に安心感を与える配慮から始まりました。また、全員前を見るように指示を出した後、「みんな見るでしょ、6 の 1 は抜群にいいね。」と話し、個人ではなく集団的自尊感情の育成に努めておられました。

相手に質問をしてその回数を競う活動では、児童は「19 でした。」と答えると、『いくつでしたか?』ときかれたのだから『〇〇でした。』と答えた所が素晴らしい。」と言われ、何気ない言葉の中に重大な価値を見出す指導がなされていました。

また、発表者の児童が言葉に詰まった時、「これを沈黙の美しさと言います。一生懸命に考えての沈黙はとても素晴らしいのです。」と話し、この児童を失敗体験にせず、プラスの行動に捉えて評価をする姿勢が見られました。



### 講演「生きる力を育む学級づくりの方程式」

講演会では、現在の子どもたちの様子をビデオで紹介しながら、菊池先生が日々の教育活動で大切にされている学級づくりのポイントについて、話を展開されました。印象に残った二つの話を紹介します。

#### 児童への褒め言葉

「単に〇〇が素晴らしいと褒めるだけではありません。その行為に自分はどんな価値を見出したのか、そして、そんな行為を行うあなたは大好きだと伝えます。ほめ言葉のシャワーでは、これが 1 日に 30 個（30 人のクラス）、シャワーのように注がれます。すると、直ぐに怒って教室を飛び出していた児童も心を開いてくれるようになります。」

#### 大切にしている言葉

『1 人は美しい』……「学級づくりでは、この言葉を大切にしています。一齐に『各自で音読 3 回しましょう。』と言います。すると、まだ読めていないのに、周囲の雰囲気を読み終えたふりをする児童もいます。最後の最後、1 人になってもまだ熱心に読んでいる児童がいます。こんな子を指して、『1 人は美しい』と褒めます。直ぐにできなくても正直に頑張る姿の素晴らしさを教えます。」

『沈黙は美しい』……「私が『この種は何色か』と問いかけると、子どもが一色で表現できず、いろいろ考えて、沈黙になりました。私は、一生懸命に考えての沈黙は、とても素晴らしいと伝えます。直ぐに答えられることも素晴らしいですが、答えようと努力する過程を褒めます。」



当たり前の指導のように聴こえますが、私たちはこうしたことを意識して明確に児童や生徒に伝えているのでしょうか。今回のセミナーでは、自分の指導を振り返るよい機会となりました。